

How To : vzAnyの使用

内容

[概要](#)

[vzAny:概要](#)

[使用方法](#)

概要

この記事は、ACIバージョン2.1に対して記述されています。新しいバージョンを使用している場合は、スクリーンショットと出力が異なる場合があります。

VRF(Virtual Routing and Forwarding)という用語は、さまざまなバージョンのACI全体で「コンテキスト」および「プライベートネットワーク」と相互に変更されることがあります。

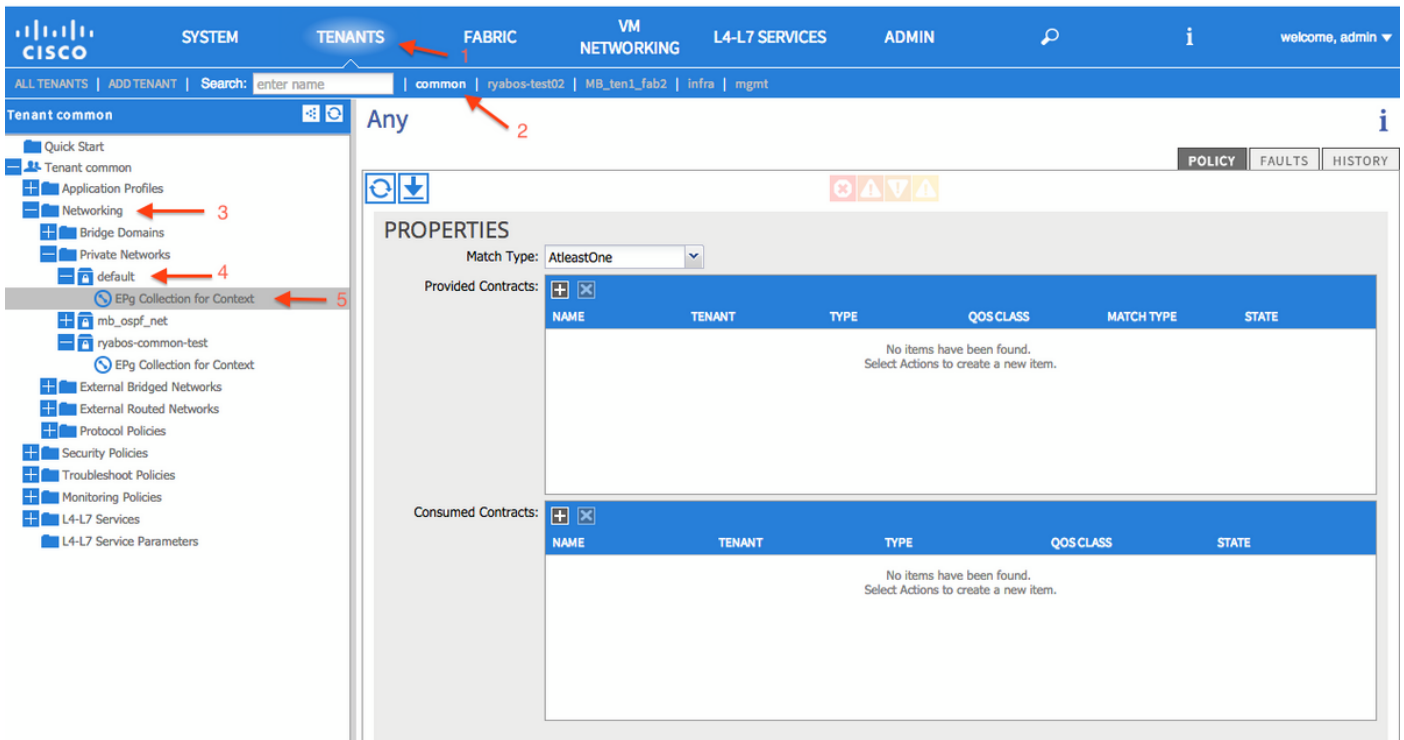
vzAny:概要

「任意」のエンドポイントグループ(EPG)は、VRF (仮想ルーティング機能) 内のすべてのEPG (エンドポイントグループ) の集合であり、そのVRF内のすべてのEPGを簡単に参照できます。この簡単な紹介により、VRF内のすべてのEPGに対して単一の契約点設定が可能になり、管理が容易になります。また、契約を各EPGではなく、この1つのグループに適用することで、ハードウェアリソース消費を最適化します。

つまり、同じVRF/VRF/プライベートネットワークに属する1000個のEPGがある場合は、各EPGではなく、VRF/VRF/プライベートネットワークの下のこの1つのvzAnyグループにコントラクトを適用できます。

使用方法

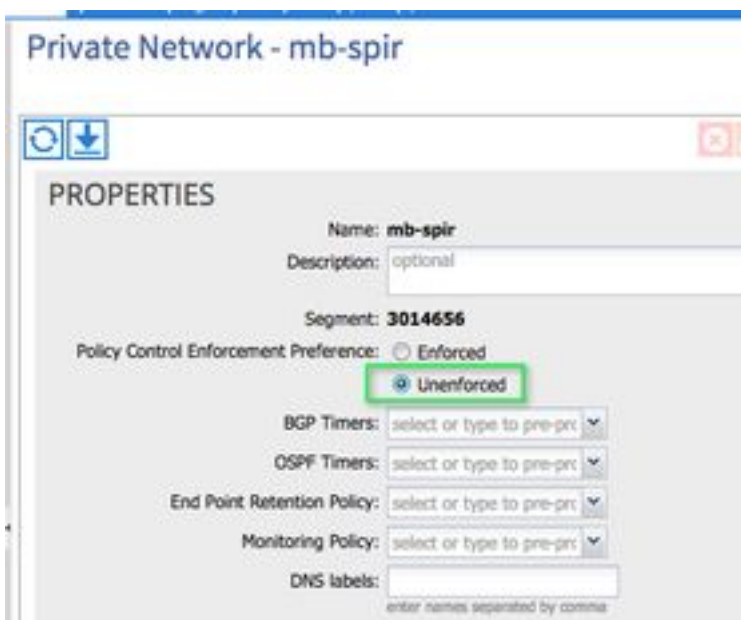
vzAnyグループへのコントラクトの適用は簡単です。APIC GUIで、契約を適用するVRF/VRF/プライベートネットワークのvzAny設定ページに移動します。このパスは、[Tenants] -> (Your Tenant) -> [Networking] -> [Private Networks or VRFs] -> (Your Private Network or VRF) -> EPg Collection for VRFです。



このグループに契約を適用するには、[Provided Contracts]の横にある[+]記号をクリックし、適用する契約を選択します。[Update (更新)]をクリックして、契約を適用します。次に、[Consumed Contracts]の横にある[+]記号をクリックし、適用する契約を選択します。すべての契約を追加したら、[Update (更新)]をクリックし、[Submit (送信)]をクリックします。

===== VZANYを使用する場合は、次のルールに従ってください=====。

ブリッジドメイン内のEPG間の「any to any」接続が必要な場合、正しい方法は、VRFを「Unenforced」モードで動作させることです。



vzAnyのEPGのコレクションを使用する際にユーザが行うべきではないことは、共通/デフォルト契約のプロバイダーとコンシューマの両方に対して設定することです。 vzAnyオプションを使用して契約を展開する場合は、より具体的な契約フィルタルールを使用する必要があります。

次の組み合わせはサポートされていないため、断続的な接続の問題が発生する可能性があります。

Private Network - mb-spir

PROPERTIES

Name: **mb-spir**
Description: optional

Segment: **3014656**

Policy Control Enforcement Preference: **Enforced**
 Unenforced

BGP Timers: select or type to pre-rc
OSPF Timers: select or type to pre-rc
End Point Retention Policy: select or type to pre-rc
Monitoring Policy: select or type to pre-rc

DNS labels: enter names separated by comma

SYSTEM TENANTS FABRIC VM NETWORKING L4-L7 SERVICES

ALL TENANTS | ADD TENANT | Search: enter name | common | mgmt | mb-spirent | pod1 | pod2

Tenant mb-spirent

- Quick Start
- Tenant mb-spirent
 - Application Profiles
 - Networking
 - Bridge Domains
 - Private Networks
 - mb-spir
 - EPg Collection for Context
 - External Bridged Networks
 - External Routed Networks
 - Protocol Policies
 - L4-L7 Service Parameters
 - Security Policies
 - Troubleshoot Policies
 - Monitoring Policies
 - L4-L7 Services

Any

PROPERTIES

Match Type: AtleastOne

Provided Contracts:

NAME	TENANT	TYPE	QoS CL
default	common	Contract	Unspec

Consumed Contracts:

NAME	TENANT	TYPE
default	common	Contract

プロバイダーとコンシューマに対する強制および共通/デフォルトの契約が無効な組み合わせです。

VRF内の任意のEPGがWebサービス契約を利用できるようにしたい場合に、vzAnyを使用する正しい方法。

SYSTEM TENANTS FABRIC VM NETWORKING L4-L7 SERVICES

ALL TENANTS | ADD TENANT | Search: enter name | common | mgmt | mb-spirent | pod4 | pod1

Tenant mb-spirent

- Quick Start
- Tenant mb-spirent
 - Application Profiles
 - Networking
 - Bridge Domains
 - Private Networks
 - mb-spir
 - EPg Collection for Context
 - External Bridged Networks
 - External Routed Networks
 - Protocol Policies
 - L4-L7 Service Parameters
 - Security Policies
 - Contracts
 - Web-services
 - mb-ip-all
 - Taboo Contracts
 - Imported Contracts
 - Filters
 - Troubleshoot Policies
 - Monitoring Policies
 - L4-L7 Services

Any

PROPERTIES

Match Type: AtleastOne

Provided Contracts:

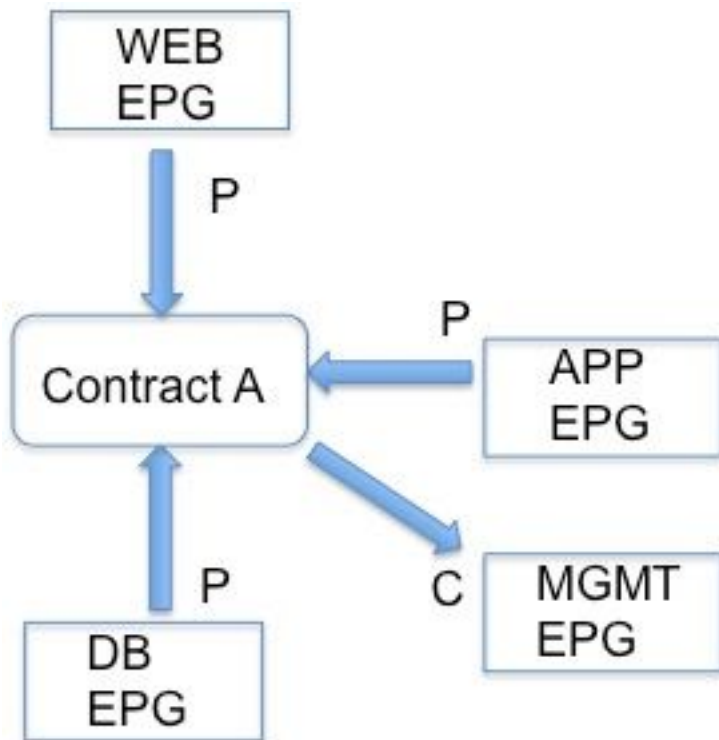
NAME	TENANT	TYPE	QoS CL
------	--------	------	--------

Consumed Contracts:

NAME	TENANT	TYPE
Web-services	mb-spirent	Contract

次に、Webサービスが提供されるEPGで、Webサービス契約を提供契約として設定します。

別の使用例：



ここで、EPGの下のすべてのEPGはコントラクトAを提供します（VRFがコントラクトAを提供するため）。ただし、EPG MGMTだけがコントラクトAを消費します。契約で許可されたSSHを想定し、お客様がMGMTのデバイスからVRF内の他のデバイスへのSSHを開始したいと考えています。 vzAnyを使用してVRFで契約を提供し、SSHの開始元となる1つのEPGで契約を消費します。基本的にEPG MGMTもコントラクトAを提供しますが、他のEPGがコントラクトAを消費しない限り、EPG MGMTのデバイスだけがSSHを開くことができます。

注意すべき点：

VRFでの強制モードとともに、vzAnyを使用して共通/デフォルト契約を提供し、消費することによって作成される条件は、[CSCus74188](#)で対処されます。

vzAnyの使用には、L3 out EPGは含まれません。これは、1.11jリリースで修正されています。これは[CSCuu13617](#)で取り上げられています。